

令和3年度青少年活動交流センター事業評価表

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針						
					必要性 (30)			達成度 (30)			効率性 (30)			その他 (10)		
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標			②満足度	③周知・理解	①費用対効果		②計画どおりか	③負担はないか
全般的業務		センター利用者数	ア センターの管理運営 イ 「県民活動交流センター」入居施設等との連携 ウ その他管理一般業務	センター利用者数 センターの利用者数:「団体活動室等利用者」、「いわて希望塾」、「いわて親子フェスティバル」、「相談件数」を合計したもの。												
(1)活動	1	① 青少年活動の場の提供・環境整備	青少年のニーズに合わせた活動場所を提供できるよう、掲示物等の空間環境とボランティアによる人的支援体制等を整備する。	青少年関係団体等の自主的な活動を側面から支援するため、団体活動室等の利用について、関係団体やNPO等に積極的に働きかけるとともに、利用者のニーズに合わせた活動、交流場所の提供及び情報交換に利用できる展示環境を提供。 期 日:通年 内 容:青少年健全育成関係団体を対象とするアイーナ内での事業展開場所の提供 及びオンライン化(非対面型の活動)の支援(パソコン、webカメラ等の情報発信器材等提供及び事業展開場所の提供を行った。 ※8月12日(木)から9月16日(木)の間、岩手緊急事態宣言発出に伴い、アイーナ内施設の来所による利用休止。18時30分まで開館時間変更(9月22日(水)まで)。それ以外の期間については、団体活動室1、団体活動室4、6階ラウンジ(エレベーター前)の一般共有スペースについて、椅子の数(定員)を減らして運用(管理:NPO活動交流センター)。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) A(30) ①:0 ②:10 ③:10 【目標値】 23,000名 【実績(1月末日現在)】 7,656名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10		B(80) A(90)	継続して実施することとしたい。						
	2	② 青少年活動サポート事業 (1)「青少年ボランティアネットワークの構築」	いわて親子フェスティバル等のセンター事業へのボランティア参加者が、事業の企画段階から参画するとともに、相互に交流する機会を設けることにより、ボランティア活動の活発化を促進する。	いわて親子フェスティバルをはじめとするセンター事業へのボランティア参加者を募集。青少年ボランティアに対しては、事業を通じたボランティアに関する研修の実施や相互に交流する場を設けることなどにより、ネットワークの構築と活動の活発化を促進 期 日:通年 内 容:NPO法人からのボランティア派遣依頼(3名)、いわて親子フェスティバルのボランティア(146名)による企画会議(5回)及び実行委員会(1回)の開催など、事業を通じた研修や交流を行い、ボランティア相互のネットワーク形成の機会を設けた。また、ボランティア間の情報交流が進むようパソコン等環境の整備を進めた。 ・参加者:県内に在住する概ね16歳～30歳の青少年、登録ボランティア(146名) 延べ 470名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10 【目標値】500名 【実績】470名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10		B(80)	継続して実施することとしたい。 引き続き、県内5大学、専門学生等に、募集の働きかけを図るとともに、オンラインでの参加を含めてボランティア相互のネットワーク形成及びボランティアのスキルアップを図る研修を開催するなど、内容を充実させて実施することとしたい。						
	3	「こどもの心をつかむわくわくワークショップ」	専門家による実践研修を通じて、豊かなコミュニケーション能力やリーダーシップを養い、子ども・若者への対応能力の向上を図るとともに、若者の主体的活動の促進(ボランティアの育成と活動の活発化の促進)及び将来の青少年育成活動の担い手の育成を図る。	広く子どもとの活動に関心のある方々を対象に、工作やアイスブレイクのポイントを学ぶワークショップを開催。 すぐに活かせる!こどもの心をつかむわくわくワークショップ 令和4年1月23日(日) 矢巾町公民館3階大会議室 参加者:保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、ボランティア等 44名 内 容:第1部 くぼたまさことによるおとなのための研修会 講師:久保田 雅人 氏 第2部 こどもの心をひらくコミュニケーション講座 講師:盛岡大学短期大学部幼児教育科助教 及川 未希生 氏	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】(自主)40名 【実績】44名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10		A(90)							
	4	(2)いわて希望塾(計画変更)	震災からの復興が進む沿岸地域において、体験的活動や市町村の枠を越えた交流活動、「復興」「地域づくり」についての学びを行うことにより、震災を風化させることなく、積極的に岩手の「復興」や「地域づくり」を担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成する。	例年実施の「いわて希望塾」は、2泊3日の日程で実施してきたところ。感染症拡大により、宿泊・交流事業は令和2年度に引き続き中止とし、岩手の良さや、将来の明るい未来について、考えを深めるきっかけとなるよう、「わたしの一押し・わたしが思う未来のいわて」つづやきを募集。 募集期間:令和3年7月20日(火)～10月31日(日) 応募者数:819点 内 容:中学生が思う岩手の良いところ(わたしの一押し)や希望する岩手の姿(わたしが思う未来の岩手)について端的に表現したつづやき(50字以内)を募集し、選考委員会において優秀作品102点を選考。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10 【目標値】 塾生120名、青年サポーター20名 【実績】0	B(20) A(30) ①:10 ②:0 ③:10 10 人件費を除く費用(846千円)	(10) 作品応募者数:819名	B(80) A(90)	日帰り、分散開催等により交流事業を実施。新型コロナウイルス感染症の感染動向などにより、実施できない場合は、端的に表現したつづやきを募集することとしたい。						

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価							総合評価	今後の事業方針			
					必要性(30)			達成度(30)			効率性(30)			その他(10)		
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果				②計画どおりか	③負担はないか
5	③青少年健全育成のための地域による情報メディア対応促進事業	青少年のインターネットやスマートフォン等の利用が増え、有害情報で被害を受けたり、ネット上の誹謗、中傷、いじめなど青少年の健全育成上様々な課題が生じていることから、情報機器の正しい利用について地域での主体的な取組を促進し、青少年の健全育成を推進する。	(1) 情報メディア対応力養成講座(4地域) 県北地区(久慈市11/24)、県央地区(盛岡市11/30)、県南地区(一関市12/2)、沿岸地区(宮古市12/7) 合計(4回)43名(オンライン配信:136回)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) A(30) ①:0 ②:10 ③:10 【目標値】170名 【実績】43名、オンライン配信:136回	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	(10)	B(80) A(90)	継続して実施することとしたい。 有害情報から青少年を守るための啓発活動のほか、ニーズに対応した内容により実施していきたい。						
			(2) 情報メディア「出前」講座(17回) ※1月末現在 小学校、中学校、高等学校、PTA、公民館等 延べ1,823名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】出前5回 【実績】出前17回	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	(10)	A(90)							
			(3) 情報メディア対応機関連絡会議 最新のネット上の課題、相互の連携の在り方等についての協議・意見交換等 令和3年5月27日(木) 県庁13階 P1-K会議室 参加者:7名(岩手県教育委員会事務局、盛岡市少年センター、警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課等)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10 【目標値】(自主)1回 【実績】1回	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	(10)	A(90)							
(2) 交流	①地域づくり促進事業 (1) いわて親子フェスティバル	青少年の健全な育成・成長に果たすべき第一義的な責任は、家庭・保護者であり、家庭における対話やふれあいが重要であることについて啓発するとともに、地域全体で子育てを行う機運を醸成する。	子育て、家庭教育、親子の対話等をテーマとする講演を中心とするセミナー及び親子や家族で楽しみ、ふれあいを深めるイベントを開催。 ※県民活動交流センターの協力を得て実施。 当初9月20日(月・祝)アイーナにて開催予定の「いわて親子フェスティバル」は、感染症拡大防止のため中止とし、同フェスティバルのコーナーを一部変更、工作セットを郵送によるプレゼントのほか、「親子であそぼう! キッズラボ ミニ」を開催。 期日:令和3年11月6日(土)・7日(日) 会場:アイーナ 参加者:親子418名、協力団体・出演者、青少年ボランティア105名 内容:SL乗車、親子で遊ぼうコーナー、体験コーナー(事前予約制)、親子で遊ぼう おうちキッズラボ「工作セットプレゼント」 ※ 青少年ボランティアによる企画会議(5回)及び実行委員会1回)の開催など事業を通じた研修や交流を行った。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10 【目標値】5,400名 【実績】418名	B(20) ①:10 ②:0 ③:10	(10)	B(80)	新型コロナウイルス感染症の感染動向などにより、参加は事前の予約制とし、人数を制限するなど規模を縮小し、継続して実施する。							
			(2) 子ども・若者支援セミナー「社会生活に困難を有する子ども・若者支援セミナー」	社会生活を営む上での困難を有する子ども・若者の現状や社会的背景及び支援方策について幅広く学習するとともに、専門家による2回の連続講座(講話及びワークショップ)を開催。 ・参加者:青少年育成団体、市町村青少年担当者、学校、幼保園関係者等 合計(2回)177名(うちオンライン参加140名) ○第1回 令和4年2月7日(月) 参加者:20名(うちオンライン72名) 「子どもの問題を抱える家族への支援～不登校やひきこもりに着目して～」 岩手大学人文社会科学部人間文化課程教授 奥野 雅子氏 ○第2回 令和4年2月14日(月) 参加者:17名(うちオンライン68名) 体験型講座(ワークショップ) 「子どもの問題を抱える家族のこころと行動を支える～支援者のためのコミュニケーションスキルトレーニング～」 岩手大学人文社会科学部人間文化課程教授 奥野 雅子氏 「地域課題解決セミナーin滝沢(共催:滝沢市)」として「発達障害の理解と支援に関する講演・ペアレントトレーニング演習」を10月に滝沢市で実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染を防止するため、中止としました。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10 【目標値】200名 【実績】177名(うちオンライン参加140名)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	(10)	B(80)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、機関相互の連携の強化を図る。						

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針						
					必要性（30）			達成度（30）			効率性（30）			その他（10）		
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標			②満足度	③周知・理解	①費用対効果		②計画どおりか	③負担はないか
(3) 情報	8	青少年健全育成広報事業		<p>青少年活動交流センターにおける各種事業の実施や青少年育成活動の先進的取組み等に係る様々な情報について、広報活動を行った。</p> <p>① 広報紙「青少年いわて」(各号1,800部、11月、3月) 広報紙「アイーナインフォメーション」12回(毎月1回) ② インターネットによる広報 (https://www.aiina.jp/site/seishounen/)</p> <p>アクセス数:37,275件、情報発信日数:156日、ツイッターフォロワー730名、フェイスブック友達146名、情報発信日数:156日(令和4年1月末日現在)</p> <p>③ 青少年健全育成県民運動啓発用、「いわて家庭の日」啓発用 電子版「いわて家庭の日」各市町村等 12回(毎月1回) ④ 啓発活動 いわて家庭の日・相談室PRカード配布300部 ⑤「わたしの主張岩手県大会」発表文集 780部(配布先:市町村教育委員会、全中学校等) ⑥「つぶやき」作品集 1,700部(配布先:市町村教育委員会、参加中学校等)</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p> <p>【目標値】 ホームページアクセス件数:35,000件、情報発信日数:180回 【実績(1月末日現在)】 ホームページアクセス件数:37,275件、情報発信日数:156日</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p> <p>人件費を除く費用(223千円)</p>		A(90)	継続して実施することとしたい。						
	(4) 相談	9	相談事業	<p>青少年やその家族等が抱える様々な問題等の解決に資するため、青少年及びその家族等からの相談に応じるとともに、青少年活動に関する情報提供を行う。</p>	<p>非常勤の相談員3名により、青少年の悩み、青少年を取り巻く家族等の悩みや青少年活動に関する電話、面接及びメールによる相談を行った。</p> <p>電話相談、面接相談、メール相談 合計586件(令和4年1月末日現在)</p> <p>相談時間 9:00～16:00(月・木のみ9:00～20:00)</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p>	<p>(事業実施中)</p> <p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p> <p>【目標値】 相談数460件 【実績(1月末日現在)】 586件</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p> <p>人件費を除く費用(284千円)</p>		A(90)	継続して実施することとしたい。 引き続き、相談室の周知のため、中・高校へのPRを行うほか、保護者の需要に対応するため、保護者への積極的な周知を図る。					
(2) 青少年相談事例検討会の開催			<p>県内の関係相談機関における相談事例の検討を行うことにより、相談関係者の指導力の向上及び相談関係機関の連携の推進を図り、青少年の健全な育成に資する。</p>	<p>相談員間の事例に関する情報共有及び事例検討の機会を確保するとともに、相談スキルを向上させるため、他相談機関の相談職員をも対象とした事例検討会を行った。</p> <p>○第1回 令和3年11月8日(月) アイーナ8階 804A会議室 講演「孤立と虐待を生まない地域社会を目指して」 講師:東北福祉大学総合福祉学部 准教授 平川 昌宏氏 参加者:80名(うちオンライン参加34名)青少年団体、青少年育成団体及び市町村民会議、NPO等 ※講演のYouTubeによる配信(11月16日～12月28日、視聴回数76回) ○第2回 令和4年2月8日(火) アイーナ8階 804B会議室 模擬事例検討(コーディネーター:岩手県立大学教授 三上 邦彦氏) 参加者:相談機関の相談関係者等15名(相談機関の相談関係者等) 内 容:青少年に関する相談機関の相談事例検討</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p> <p>【目標値(自主)】 65名 【実績】95名(うちオンライン参加34名)</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p> <p>人件費を除く費用(40千円)</p>		A(90)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、事例検討による相談対応能力を向上させるほか、相談機関相互の連携を図ることにより相談体制の強化を図る。						
(5) 共催事業	10	いわて県民情報交流センター内の他入居施設との共催事業	<p>いわて県民情報交流センター内の拠点施設と今日的課題に対応した事業連携を図る。</p>	<p>アイーナ運営協議会(毎月1回)、県民活動交流センター長会議(毎月1回)に出席。 共催事業:いわて親子フェスティバル(実行委員会1回・当日の企画運営) アイーナPV撮影(ボランティアの協力、撮影協力) ※子供・若者向けにアイーナ調理実習室を活用したボランティアによる動画撮影を行う予定であったが、岩手緊急事態宣言及び当該大学の対外活動停止の措置があったため、中止とした。</p>	<p>A(30) ①:10 ②:10 ③:10</p>	<p>B(20) ①:0 ②:10 ③:10</p> <p>【目標値】男女共同参画センター等との共催事業3回 【実績】1回</p>	<p>B(20) ①:10 ②:0 ③:10</p> <p>人件費を除く費用(0円)</p>		C(70)	コロナ禍でも実施できる方策を検討することとしたい。						

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価								総合評価	今後の事業方針		
					必要性 (30)			達成度 (30)			効率性 (30)				その他 (10)	
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果	②計画どおりか				③負担はないか
(6) 自主事業	11	青少年体験講座	調理など家事を手伝う積極性やマナーを学び、他者を思いやる心や協力することを大切さを養う。	青少年等を対象に親子のふれあい、食、マナー等をテーマとする体験講座「親子料理教室」(2月)をアイーナ指定管理者と共催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。 (企画変更)アイーナPV撮影(ボランティアの協力、撮影協力) ※子供・若者向けにアイーナ調理実習室を活用したボランティアによる動画撮影を行う予定であったが、岩手緊急事態宣言及び当該大学の対外活動停止の措置があったため、中止とした。	(中止)								コロナ禍でも実施できる方策を検討することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。			
	12	国際理解・協力推進事業(国際交流シンポジウム)	国際的視野と国際協調の精神を身につけた青少年を育成する。	内閣府青年国際交流事業の紹介、国際交流事業に参加して感じたことなどを語るフォーラム及び県内青少年との交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。 令和4年3月 場 所:岩手大学 内 容:内閣府青年国際交流事業の紹介、グループトーク、交流会	(中止)											
	13	災害復興支援事業 復興バザー	東日本大震災の被災者支援及び県民とアイーナの絆づくりを行う。	ボランティアの参加(売り子等)を得て、アイーナ入居の各センター連携事業として実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。 内容:アイーナ4階県民プラザにおいて、アイーナブース(アイーナ職員供出物品の販売)を設置、個人・福祉施設出店、被災地からの出店販売	(中止)											